

醫書云天正五年丁丑八月の事なり。曰以
東海林七希南館（夜討を志村小折負士
大將清江を敵に十之勝二人七希武政
と討む。討南館を焼一記曰白岩より燭秀
燃て又石水の（岩地）入館合て一万
二石ハ白岩を和分後代より酒井長門
又石より（て東海林分）三石を合八
石と云しと云。其時より後寛永年中百姓一
揆して以絶其後市と料となり。當時古代
史持之

一 白磐神

在り磐神詳なり。是三代実録より出羽白
磐神授後又位下とあり。白岩館の事後神
なり。なりや

一 沼平館

当館ハ庄内境月山の腰に續く山にて
岩冑の苔を居と一洗津瀬を堀とし要
害の地なり。白多十希武任の臣東海林年
人（実名）の地位を一記なり。羽後記より付
は三子二百石東海林に希とあり。八平人の